

## 国内経済情勢

### 概観

最近の鉱工業生産、出荷は増勢を強めており、機械受注等も増加基調を示すなど、景気は着実な上昇局面を迎えている。一方卸売物価は、需要の増加に海外市況高などが加わって大幅上昇を続けている。

金融面の動きをみると、10月の銀行券平均発行残高は引き続き前年比伸び率を高め、また9月の金融機関貸出は期末事情もあって大幅に増加した。この間、全国銀行貸出約定平均金利は9月もかなりの低下を続けた。

9月の国際収支では、資本収支等が流出超幅を広げたほか、輸入も高い伸びを維持したものの、輸出が船舶の引渡し集中などから大きく増加したため、貿易収支および総合収支の黒字幅は拡大した。

#### 生産、出荷の増勢強まる

9月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比、速報)は前月大幅増加のあとも+0.4%と増加し(原計数の前年同月比+9.5%)、また今後も引き続き増加が見込まれている。この結果7~9月期通計では前期比+3.0%と4~6月期(同+2.6%)の伸びを上回った。9月の動きを財別にみると、建設資材、生産財、非耐久消費財が反落したものの、耐久消費財が大幅反動増となり、一般資本財、資本財輸送機械は増加を続けた。

9月の鉱工業出荷(季節調整済み、速報)は前月比+1.9%とかなりの増加を示した(原計数の前年同月比+8.7%)。これには船舶の引渡し集中なども響いているが、基調としては生産と同様増勢を強めているものとみられ、7~9月期通計では前期比+2.2%と4~6月期(同+1.6%)の伸びを上回った。

9月の生産者製品在庫(季節調整済み、速報)は前月比+1.4%となり、7月以降3か月連続の増加を示した。9月の増加を財別にみると、建設資材、耐久消費財の伸びが目だっている。なお、生産者製品在庫率は出荷の好伸から101.5と前月比小幅の低下となった。

設備投資関連指標の動きをみると、これまで一高一低を繰り返していたものが、ここへきていずれも増加基調を固めてきているよううかがわれる。すなわち、一般資本財出荷(季節調整済み、前月比)は、9月(速報)も+0.6%と小幅ながら3か月連続して増加した。品目別には工作機械、トラクター、圧延機械等がかなりの増加をみせた。また9月の機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み)は、非製造業の続伸と製造業の回復傾向から前月比+20.2%とほぼ前月並みの増加となった。9月の建設工事受注額(民間産業分、季節調整済み、速報)は前月比+1.3%と前2か月に続いて増加し、7~9月期通計でも前期比+9.4%とやや増勢を強めた。また官公需分は前月比+20.6%と前月に次いで大幅な伸びを示した。なおこのところ建設受注の未消化工事高はかなり増加して

いる。

9月の労働および賃金関連指標(いずれも季節調整済み、前月比、速報)をみると、一般求人倍率は1.26と前月(1.20)比さらに水準を高め年初来の上昇傾向を続けている。常用雇用(全産業)は小幅の増加を続け、また所定外労働時間は生産活動の活発化を映じて+1.5%となり、前年水準を上回るに至った。名目賃金(同)は国鉄等のペア追払いなど特殊事情もあって+7.8%と著伸した。

9月の全国百貨店売上高(速報)は前年が秋冬物衣料を中心に伸びが高かったことから前年同月比では+14.4%と前月に比べて伸び率は低下したが、10月にはいつてからやや持ち直している模様である。

#### 卸売物価の上昇続く

10月の商品市況では、銅、棒鋼、そ毛糸等上伸一服ないし反落するものがみられたが、木材、石油製品等が騰勢を強めたほか、セメント、紙等も上伸傾向を示し、総じてみれば、ひところほどの全面高ではないが引き続き強調を維持している。これは官公需などが増加を続けているほか、生産活動の活発化を映じた原材料手当てや流通段階における在庫投資の積極化など需要面の動きに加え、一部品目で生産抑制などの供給側の要因が働いているほか、これまでの海外市況の騰勢が輸入価格上昇や国産品の価格引上げを招いている面も少なくない。

卸売物価は繊維品、木材・同製品、食料品をはじめほぼ全品目にわたる値上がりから9月は前月比+0.9%と月中としては42年1月(同+0.9%)以来の上昇を示し、10月も引き続き同+1%程度の上昇となった模様である。

10月の消費者物価(東京、速報)は、くだもの、野

菜等生鮮食品を中心に食料費が下落したことから、前月比+0.2%の上昇にとどまった(前年同月比+3.8%)。しかし季節商品を除く総合では、被服費、住居費の値上がりから前月比+0.7%の上昇となった(前年同月比+5.6%)。

#### 銀行券の増勢高まる

10月の銀行券発行超額は479億円と前年(同262億円)を上回った。一方、財政資金は外為会計の払超がかなり大きかったことなどから4,067億円と前年に比べて大幅の払超となった(前年同849億円)。この結果、金融市場の資金余剰額はその他勘定と合わせて3,641億円に達し、日本銀行は貸出の回収と売オペレーションでこれを吸収した。この間コール・レートは中旬には翌日物、無条件物とも0.125%低下したが、月末にかけて市場が一時的にやや小締まりに転じたため同じ幅だけ上昇した。

10月の銀行券月中平均発行残高は前年同月比+20.8%(沖縄分を除くと+20%程度)とさらに水準を高めた。銀行券の前年比増加率が20%台となったのは45年1月以来のことである。一方、このところ鈍化傾向にあった預金通貨平均残高の伸び率は、9月には企業向け貸出の増加などを背景とした法人預金の増加を主因に、前年同月比+17.0%と前月(同+16.3%)をやや上回った。

9月の全国銀行貸出増加額は前年同月比+78.6%と大幅増加となった。これには期末月の関係から貸出伸長が著しかったという面があるほか、不動産、建設、商社等の非製造業を中心に資金需要が引き続き活発であることも響いているとみられる。また、中小企業金融機関貸出増加額は高水準の伸びを維持した。

9月の全国銀行貸出約定平均金利は、月中

-0.085%と前2ヵ月ほどではないがかなりの低下を示した。これは長期金利改訂に追随する利下げなどがなお進捗していることによるものとみられる。

10月の公社債市況をみると、農林系統金融機関の一部に再び買い意欲がみられるようになったことなどから、ひところの軟化気配が後退して大勢横ばいに推移した。一方株式市況は、月中総じて騰勢を続け月末には旧ダウ4,500円台に乗せた。

#### 貿易収支の黒字幅拡大

9月の国際収支をみると、貿易外、移転収支が赤字幅を拡大し、資本収支等も流出超幅を広げたものの、輸出が船舶の引渡し集中や期末要因などからかなりの伸びをみせたため貿易収支の黒字が増加し、この結果総合収支では579百万ドルの黒字(前月同557百万ドル)となった。貿易収支を季節調整後でみると、輸入が前月比+2.6%と引き続き好伸したが、輸出が同+7.4%と輸入の伸びをかなり上回ったため、収支じりでは789百万ドルと黒字幅を拡大した(前月同659百万ドル)。

9月の輸出を通関ベースでみると前年同月比+25.4%と久しぶりに2割台の増加となった(邦貨表示額では同+11.6%)。品目別には機械機器が高水準の伸びを示しているが、なかでもこのところやや伸び悩みをみせていた自動車、テレビが

かなりの増加となった。また鉄鋼も規制枠消化の関係などもあって増勢上向きとなった。地域別では西欧向けが引き続き高い伸びを示し、また米国向けが大幅増加となったのに対し、共産圏向けは前年水準を下回った。

10月の輸出信用状接受高(季節調整済み、前月比)は+2.0%と7月以来4ヵ月連続して増加した。品目別には、鉄鋼、一般機械の伸びが高く、地域別には欧州、アジア向けの伸長が目だっている。

9月の輸入(通関ベース)は前年同月比+35.4%と前月に続いて3割台の著伸を示した(邦貨表示額では同+20.3%)。品目別にみると、鉄鉱石、鉄鋼くず等の金属原料が前年水準を下回ったほかは各品目とも増加し、食料品、繊維原料、木材等は輸入価格の上昇も加わって大幅な伸びをみせた。地域別には米国からの輸入が前年の低水準もあって著伸となったほか、西欧、豪州なども高い伸びを示した。9月の輸入承認額(季節調整済み)は前月に大口契約があった反動から前月比-4.9%と減少したが、前年同月比では+28.7%と高水準の伸びを示している。なお10月の外貨準備は月中1,307百万ドル増加し、月末残高は17,796百万ドルとなった。

(昭和47年11月10日)